

通学の安全確保と支援についての意見について

●木佐上小学校区からの意見

先般、本校のPTAと市教委で個別に意見交換会を開き、通学に関することを中心に協議を行った。その中で通学に関する問題点として、通学路を実際に歩かせた場合、自宅からこうざき小まで約1時間程度かかった。その際に公衆トイレや給水施設、夏場においては暑さをしのぐ場所が全くないという通学環境が指摘され、常に誰かが駐在しているような場所もないため、非常時に助けが求められないことや、監視が不十分という防犯面での問題が挙げられた。

また、幸崎駅周辺の県道715号線及び幸崎駅南側にある踏切や歩道及び車道が非常に狭いため、通学時間帯は非常に交通量も多くバスの通行もあるために、事故の危険性が高いという事が報告された。このような状況から、通学距離にかかわらず、希望者全員に対して木佐上小校区からこうざき小までのスクールバスを運行させていただきたい。また、スクールバスの運用内容については、適用を決定した後、また協議を行って決めていきたいと考えている。駅周辺の県道715号線の道幅の拡大並びに十分な歩道の確保、踏切の歩車分離を行っていただきたい。

本校の子どもにつきましては来年春より通学路が変わるという事で、子どもたちを実際に通学させるために、まず、スクールバスの支援、通学路の改善について市教委に要望したい。



●大志生木小学校区からの意見

木佐上小校区の様子をみながら、保護者会を開いている。具体的にはないが、スクールバスは要求しよう。なかにはコミュニティバス、いわゆる地域の方が一緒に乗れるようなものも含めて意見は出ているが、まだ具体的に内容をまとめてない。

いろんな意見を汲みながら、木佐上小校区の取組み状況をみながらやっといこうと思っている。

木佐上校区は実際に歩いていけるが、我々は条件が違うのでできれば、市教委の方にも実際に歩いてみてほしい。冬にどれだけ風が強いのか、夏はどれくらい暑いのかということなど、実際に歩いて把握してほしい。

●こうざき小学校区からの意見

9月の木佐上小PTAの方と市教委の話し合いの中で、幸崎駅前の通学路に不安があるという声が多かったとうかがった。現在でも本校の児童、あるいは神崎中学校の生徒も通学や生活の中で利用しており、地域住民の方々の生活にも欠かせない道路でもある。

こうざき小学校長から稲生会長さんとも相談し、同じ内容で自治会と小学校とで要望書を10月2日に市長と教育長あてに提出しました。

要望書の内容は、県道木田神崎線の神崎中学校前バス停からデイスサービスふれあいまでの間の路側帯の白線の塗り直し及び路側帯内のグリーン舗装についてである。その後、市民協働推進課と教育委員会で県土木事務所に文書を提出いただいた旨の報告を受けている。



木佐上小学校統廃合についての文書が 地域協議会へ提出されました

神崎中学校区適正配置地域協議会
会長 稻生 亨 殿

木佐上小学校統廃合について

木佐上小学校は地区を一望できる高台にあり、子ども達の学舎として、また地域の文化発信の場として中心的役割を担ってきました。

その沿革史を紐解いてみますと、明治9年（1876年）、先人達が子ども達に教育をとという願いで設立し、爾来138年の歴史と伝統を持つ小学校です。

明治、大正、昭和、平成の時代を経て、地区民の学習の場として、多くの思い出や願いを叶えてきた小学校でもあり、多くの逸材を輩出してきました。

又、小学校グラウンドや体育館は地区の文化祭、運動会等の地域交流の場として、選挙の投票所、災害時の二次避難所としても使用されてきました。

しかしながら、少子高齢化、過疎化の流れはどうすることもできず、児童数は年々減少し、ここ2年続けて新入生0、全校児童13名となりました。

この現実を受け止め、木佐上小学校PTA及び木佐上校区自治会は木佐上小学校統廃合についての総会を開きました。

木佐上小学校PTAは「27年度よりこうざき小学校へ全児童通わせたい」という結論に、又、木佐上小学校を考える会と木佐上校区自治会は小学校閉校についてのアンケート調査を実施し、「回答者の75%が閉校に同意する」という結果が出ました。木佐上校区総会ではアンケート結果の報告、木佐上小学校の閉校及び閉校に向けての取り組みについて協議し、承認を得ました。

従いまして、木佐上校区自治会は、子ども達のよりよい教育環境の実現をめざすため、断腸の思いで、平成26年度末木佐上小学校を閉校し、平成27年度より、こうざき小学校に統合することに同意致します。

神崎中学校区適正配置地域協議会では、統廃合についての具体的なご協議についてよろしくお願い致します。

平成26年10月8日

木佐上校区
自治会長

幸野和夫



木佐上校区の取組み状況

木佐上小学校区より、木佐上小学校の26年度末閉校に向けた取組みとして、「閉校等準備委員会」と「跡地利用等要求委員会」の二つの組織を立上げ、これまでにそれぞれ3回開催した。「閉校等準備委員会」では、閉校記念行事の開催、記念碑の建設、記念式典の開催、閉校記念誌の作成などの意見が、「跡地利用等要求委員会」では、木佐上小学校閉校後の跡地、特に体育館とグラウンドの利用等について意見が出された。また、両委員会合同で教育委員会との話し合いも開催した。閉校まであと6ヶ月しかないが、これからも二つの委員会を開催して取り組みを進めていく旨の報告があった。

PTAからも、話し合いの場をもっている。そのなかで、各小学校の文化を残してもらいたいとの思いから、校歌や学校風景、卒業記念品などの文化遺産を常時観られるメモリアル教室といったものをこうざき小学校に設置してもらいたい旨の意見もだされたとの報告があった。

第3回地域協議会での確認事項

- ◆木佐上小学校の平成27年度からこうざき小学校へ統合すること。
- ◆平成26年11月13日(木)に賀来小中学校、神崎小学校の視察を行うこと。
- ◆通学の方法と安全性については次回までに木佐上校区と教育委員会、大志生木校区と教育委員会の双方で検討を進めること。
- ◆第4回協議会を11月25日(火)19:00から、こうざき小学校1階ホールで行うこと。

第3回協議会における主な意見を掲載しています。
(発言内容については、紙面の都合で要旨のみとしています。ご了承ください。)

○小中一貫教育の説明を受けての意見交換

- 【委員】中1ギャップの解消という話があったが、メンタル的な強さを育てるという事で、ある程度課題を与えて乗り越えさせて教育していくというのが、自分たちのイメージなんだが、ここで言う節目とはどういった事をするのか。
- 【専門委員】節目を乗り越えるというイメージではなく、卒業までの9年間、スパンが長いので中学校では中2で中だるみという言い方をするが、目標を失ったりしやすいので、短いスパン(小4、中1)で節目、節目を置いてそこで一回頑張って成し遂げることによって節目を付けようというものである。
- 【委員】こうざき小に3校統合した時に初めて小中一貫教育を進めるという事か。
- 【事務局】現状、小中一貫教育を取組んでいるが、タイプとしては連携型を進めている。賀来小中学校は併設型として校長が小学校、中学校を兼務している。1人の校長のもと運営しているので一体的な取組が行えるという利点があるという例を話したが、神崎校区を併設型にする、という事を前提としているわけではない。
- 【委員】1年から9年まであるが、教科書は市内の他の小学校、中学校で使用しているものと同じか。
- 【事務局】市内の他の小学校、中学校で使用しているものと同じである。
- 【委員】併設型とするか、しないかという判断はどこがするのか。
- 【事務局】基本的には皆さん方で協議して考え方をまとめてもらいたいと考えている。
- 【議長】小中一貫教育については、統合後のこうざき小学校がこういった方向性となるのか、選択肢の一つとして説明をしていただいた。
- 【委員】説明されたものはよい事ばかりしかなかったが、デメリットな部分はないのか。
- 【事務局】これがよくないという事を報告されたものはない。ただし、他の学校と比べた時にどうかを職員に聞き取りをしたが、1点目として、先生が忙しくなり負担が重くなるということ。2点目、小1から小4までが小学校の校舎、小5、小6が中学校の校舎で生活しているので、図書館の利用やプールなどの設備の使用時に移動距離が長くなること。3点目として小4が前期のリーダーの役目をする、また中1が中期のリーダーの役目をする。小6のリーダーとしての役目がないので他の学校と比較して若干幼稚化すると言われている。今までリーダー役が小6で1回だったものが、小4、中1の2回の活躍の場となり、マイナスと考えるかは評価の仕方次第と思われる。

<編集後記>

協議会では、協議会の様子を広くお知らせするため、協議会だよりを発刊しています。また、協議の要旨については、市のホームページでも公開しています。今後とも、協議会へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

神崎中学校区適正配置地域協議会だより「第3号」

発行:平成26年11月
発行者:神崎中学校区適正配置地域協議会
事務局:大分市教育委員会教育企画課
連絡先:(住所) 大分市荷揚町2-31
(TEL) 097-537-5903(直通)
(E-mail) kyoikukikaku@city.oita.oita.jp